

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ドルチェヴィータ守口土居 新築工事	階数	地上13F
建設地	大阪府守口市土居町	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)、近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	192人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年 3月 予定	評価の実施日	2024年10月10日
敷地面積	925㎡	作成者	大西 寿信
建築面積	336㎡	確認日	2024年10月15日
延床面積	3,388㎡	確認者	大西 寿信



ださい

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.6

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 室内環境、サービス性能、室外環境の向上を目指したマンションとする。 併せて、節水器具採用・リサイクル材の使用等 資源・マテリアルに配慮する。		その他 特に無し
Q1 室内環境 昼光率 共用部: 1.7% 住居: 2.4% 敷地全体を自動点滅でON/OFF回路またはタイマーにてOFF回路 仕上げ材全てF☆☆☆☆	Q2 サービス性能 転送速度1Gbitのケーブルを使用 ビニルクロス貼更新間隔: 20年 給水管: H1VP、排水通気管、雨水排水管: VP、Eは不使用 住居階高: 3.36m 二重天井部はケーブル転がし配線の為、容易に修繕更新ができる	Q3 室外環境(敷地内) 空地率: 64%、日陰の形成対策率: 52%、緑被対策率: 99%
LR1 エネルギー 建物外皮の熱負荷抑制: レベル4を超える水準の断熱性能を満たす。 BEI=0.76	LR2 資源・マテリアル 節水コマに加えて、省水型便器を用いている。 外構アスファルト舗装: 再生クラッシュRC-40使用 天井地下材にLGS採用	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な建物の88%である。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)ドルチェヴィータ守口土居 新築工事					
建設地		大阪府守口市土居町					
用途/区分		集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	断熱性能					5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			5	
④	エネルギー消費性能					5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			2	
		評価対象外				評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.4	3
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							